

## 第1回川口駅周辺在り方検討委員会 会議録

日 時 令和7年1月24日（金）

開 会 午前9時30分

閉 会 午前11時00分

会 場 川口市役所第一本庁舎6階 601会議室

出席者 【委員】

|       |       |                 |      |
|-------|-------|-----------------|------|
| ◎久保田尚 | ○樋野公宏 | 田中宣充            | 堀彰光  |
| 白井慎一  | 筒井毅   | 神保成究（代理出席：川幡嘉文） |      |
| 松本章宏  | 小林弘昌  | 藤田茂             |      |
| 栗原明宏  | 佐藤貴彦  | 松本敦             | 江原李佳 |
| 阿部康巳  | 大沼伸康  |                 |      |
| ◎座長   | ○副座長  |                 |      |

【オブザーバー】

|      |      |     |      |
|------|------|-----|------|
| 松野範久 | 関澤貴史 | 石川修 | 竹内秀行 |
|------|------|-----|------|

事務局 【川口市】

|                  |       |
|------------------|-------|
| 都市計画課長           | 鈴木 巧  |
| 都市計画課課長補佐兼計画推進係長 | 片山 理恵 |
| 都市計画課課長補佐兼施設計画係長 | 関根 雄一 |

[議事要旨]

### 1 開 会

事務局より、開会が宣言され、委員の紹介が行われた。

### 2 副市長あいさつ

副市長より、委員に向けたあいさつが行われた。

### 3 座長および副座長選出

川口駅周辺在り方検討委員会設置要綱に基づき、委員の互選により、久保田委員が座長、樋野委員が副座長に選出された。

#### 4 議 題

- (1) 検討委員会について
- (2) 川口駅周辺のまちづくりの動向

##### 【説明】

事務局より、資料 1 および資料 2 に基づき説明が行われた。

##### 【質疑応答・意見】

###### ・座 長

バリアフリーについて、バリアフリー基本構想は策定しているか。

###### ・事務局

バリアフリー基本構想はすでに策定済みである。

###### ・座 長

策定はされているが、まだ整備がされていないということか。

###### ・事務局

構想の中で、川口駅前のバリアフリー経路については述べているが、その状況をさらに高めていくためには、今回の課題について検討していくべきではないかと考えている。

#### (3) 川口駅周辺の課題と検討の方向性

##### 【説明】

事務局より、資料 1 および資料 2 に基づき説明が行われた。

##### 【質疑応答・意見】

###### ・委員

未来の構想という事で、少子高齢化によってタクシー事業等、労働力が不足してくるのは間違いない。15～20 年先の未来的な交通網に関して、知識が欲しい。それによっては、駅構内のバスターミナル並びにタクシープールに関しても、20 年後の用途が少し変わっているのではないか。

また、川口そごうが閉鎖したことによって、民間に頼っていたエレベーターやエスカレーター機能が、突然無くなるという事態が起こっている。こういっ

たことが将来的に起こらないとはいえないので、その辺りを担保しておく必要がある。

先日、電車通勤ができない状況に陥った時、go アプリが非常に便利だと感じた。タクシープールがないにも関わらず、タクシーが集中してやってきた。アプリを持ちながら、タクシーに乗客が乗っていく姿を見て、本当にタクシープールが必要なのか、と感じた。将来の交通体系に関する事を、講演等を交えた上で議論に入れていただきたい。

・委員

仮に 20 年先を見据えた時に、駅前を利用する 20～40 代の若い世代の意見をまとめていくのも必要だと思う。世代だけでなく、男性・女性も考慮する必要がある。

また、課題という言葉が先行しているが、課題なのか、その先の問題点なのかを精査する必要がある。早急に、行政として解決しなければいけない事は、しっかり整理した方がよい。JR 東日本が中距離電車を停車することを前提に話を進めているが、着工から 10 数年以上の期間があるとすれば、その間に生活様式も変わっていくので、解決できるところはどんどん進めていくべき。

人が集まる状況を作ると、それなりの空間やスペースが必要になる。川口そごうが閉店した時に、川口キャスティのトイレの使用率が非常に上がった。色々な空間について議論したら良いと思う。

・委員

トイレ問題だが、樹モールプラザのトイレ使用率が予想していた当初の 2 倍となっていた。トイレをお貸しすることがお客様の来訪につながるため、決して全部が悪いという事ではないが、駅前のインフラの中にトイレがまったく無いという事を含めて、川口駅を降りたらトイレを探しづらい点は考えた方が良くと思う。

資料の中で、他地区の事例を載せているが、模倣するより川口市のスタイルで、川口市の今の状況にあったものを考えてほしい。

・委員

東口のデッキについて、デッキが完成してから、ビール工場跡地が公園や住宅地に変更され、そちらの動線がイト川口のエレベーターか、もしくは駅の階段を下りて地上を歩いていく方法しかない。この歩行者動線が有効であると考えているので、デッキの考え方として、新しいリボンシティ方面への定義を考えていただきたい。

・委員

駅と街の繋がりというところでは、駅前広場が緩衝材となり、駅前広場に来る地域の方が、駅に吸い込まれていくという機能が駅の前面にある。

具体的な資料やイメージがまだ示されていないため、一般論になってしまうが、駅の顔となると、どういった機能を持たせていくのかというところが、重要な視点となる。色々な自治体があり、シンボリックに駅前を作って駅の顔にしていく自治体もあれば、駅に吸い込まれていくような、駅の存在感を消した方がよい等、自治体によって意見が分かれるところである。

今までは、京浜東北線のみが停車しているだけであり、赤羽と浦和等の近い街の競争であった。中距離電車が停まると、良い面も悪い面もある。鉄道ネットワークが広がっていくことを見据えて、考えていく必要がある。

・委員

バス事業者が駅前広場に求めることは、バスの乗降場所の確保、それが出来ないときは待機するという事である。バスが道路環境によって遅れて到着するような場合、そのバスが遅れを引きずったまま出て行ったりすると、利用者の利益を損なうので、余裕を持って待機させていただいて、遅れてきても時間通り出ていくという事が、利用者への便益と感じている。

バス事業がこの形で、ずっと続くとは思っていない。新しいモードという事であるが、それがバスであるのか、バスと別のものになるのか、乗員不足の問題等、いろいろな議論がある。この先 10 年のスパンで見るとすれば、連結バスや大型化して 1 人の運転手が多くの利用者を送り出す等の部分も考えていく必要がある。

・委員

初めて川口駅に来た人に対して、分かりやすいバス乗り場の案内等が重要。案内板だけでいいのか、またはアナウンス等を活用した方がいいのか、色々な方法があると思う。また、はじめてバスを利用する人にも、乗り場が分かりやすいサインが必要である。

最近、バス停での発進時の直前横断での死亡事故が発生しているが、バスは親しみやすい乗り物であり、乗降の直前直後は人が横断しやすいため、ロータリーでは歩車を明確に分離するような構造が必要である。乗務員不足の観点からは、連結バス、2 階建てバスなどの形態で輸送することも考えている。

- ・ 委員

タクシーに限ってだが、GO アプリが非常に多く利用されている。待機する間もなく、タクシー乗り場とは違う場所から、人を乗り降りさせている傾向が見られる。現在も人材不足が起きているので、10 年先、想像の範囲でしかないが、自動運転等を利用することも考えられる。

駅構内の構造自体も変わると思うため、現状できることは、タクシープールにおいては、大規模災害等が起きた際に利用できるか等を含めて、検討していかなければいけない。

- ・ 事務局

様々な観点から重要なお意見をいただいたので、今後の本委員会における検討に反映させていきたい。

その中のいくつかのご意見について、現時点での市の受け止めを話させていただく。

将来の交通手段の変化を踏まえた駅前広場の在り方については、本検討会の主要な論点の一つと考えている。今後どういった形で本検討会に必要な情報をインプットしていくのか考えていきたい。

交通手段の変化に関連して、例として連結バスや大型化等のご意見をいただいた。このように、今後の委員会において、交通事業者の方から将来考えられる方向性についてお話いただくことや、第二回の検討会でまちづくりの専門家に来ていただいて関連するテーマについて講演いただき、本委員会での議論を深めていくという事も考えている。

若い世代の意見を聞くことは重要であると考えている。今後、利用者等への実態調査の実施等も考えているので、その中で反映させていきたい。

駅周辺のインフラとしてのトイレについて、市が今回提示した資料からは抜け落ちていた視点であったが、非常に重要なことであるため、検討に反映させたい。

複数の委員からご意見が出たタクシーの話に関して、先ほどの将来の交通体系の話とも関わるかもしれないが、駅前にはタクシー乗り場があるが、アプリの利用等により違う場所で乗る人もいる状況である。交通手段が技術革新によって変化していく中、今後どのようなことが想定されるのかという事を本委員会の中で勉強しながら、今後の方向性をまとめていきたい。

- ・ オブザーバー

駅前の在り方という所では、駅前の使われ方が変わってきている。交通機能が駅に直接つながっていればいいわけではなく、遊びの部分やオープンスペー

スも重視される。

官民連携については、市の努力だけではこれだけの都市の再編を進めるのは難しい。民間事業者の力も必要であり、民間事業者が街に関わるためには、利益を生み出す仕組みが必要である。

- ・オブザーバー

川口市においての当該エリアの位置付けが重要となってくる。川口の歴史等の考え方も盛り込んでいくと、より良いものになると思う。

また、細かいデータの積み上げも必要になってくる。例えば、産業道路で空間が分断されているということだが、交通量がどの程度あって、市全体の道路ネットワークの計画を見た時に、他の所に交通量を切りまわせるか、道路空間を広げられるのか等の可能性もあるのではないか。タクシープールの利用率の低さについても、アプリが出てきたからなのか、他の要因があるのかなどの分析があれば、より議論が進むと思う。

駐輪場についても、駅前地下は高い利用率だが、その他は少ない利用率であるが、必要台数を捌くうえで、どのくらいの容量が必要なのかという部分と稼働率を上げられるエリアとして、市が所有している土地がどこに分布しているのか等のデータもあるとよいと思う。

こういったことをふまえて、再編・集中化していきましょう、となる。

キュポラ広場については、まずは今のキュポラ広場の活用がどうして進んでいないのかを検討した方がよい。現況でどういう区域になっているのか、管理者は誰になっているのか、イベントの頻度等、それを踏まえたうえで議論した方が面白いと考えている。

官民連携のまちづくりについても、インフラを定義するという事がまずあるが、最終的にインフラは利用されるものなので、どのような利用者がどういう風に活用したいのかを想定して考えていく必要がある。使う人の意見やビジョンとすり合わせながら検討していくと良い。

- ・座長

キュポラ広場の管理者はどうなっているのか。

- ・事務局

キュポラ広場は、道路ではなく敷地として市が管理している。

- ・オブザーバー

「川口駅周辺まちづくりビジョン」が令和4年3月に策定されており、6つ

の大きなキーワードの中で方向性が示されている。

一方で、埼玉県で取り組んでいる事として、埼玉版スーパーシティプロジェクトがある。川口市においても、このまちづくりビジョンを実現するために何ができるかというところで、この検討委員会と並行しながら進めている部分がある。県としては、伴走型支援として合わせて支援させていただく。

埼玉版スーパーシティの県全体としての取り組みの中で、「コンパクト・スマート・レジリエント」がある。コンパクト・シティのコンパクトは、まちを小さくするだけでなく、コンパクトプラスネットワーク、多様性をどうするか、タクシーのGOアプリとの連動の可能性もある。レジリエントということで防災もかかわってくるため、表現の仕方は違っても、埼玉版スーパーシティプロジェクトと関係してくる。何かお手伝いできることがあれば、支援していきたい。

#### ・副座長

将来、ICT や IT といわれている技術がどうなっているか想像がつかない。また、人々が求めるライフスタイルも想像がつかないため、変化に対して柔軟に対応していけるような将来像を描いていく必要がある。50 年先を見据えるとしても、途中の段階、5 年後、10 年後、それぞれの段階で、利便性が下がることはあってはいけない。それぞれのステージにおいて、まだ完成していないが、必要なものがあるという事をチェックしていくことが必要である。

ソフト面の話は重要で、若年層や外国人等、多様な人からの意見を参加型で取り入れていく仕組みを作っていくといけない。今回の在り方を検討するためだけではなく、50 年先まで継続的に、参加型のまちづくりの意見、あるいはニーズを取り入れる仕組みを作っていく必要がある。ハードだけではなくて、ソフトのマネジメントをどうするかについて、市民の方々にも管理という部分で関わっていただきながら、マネジメントを進めていくという考え方もある。

少子高齢化を見据えて、今後、どんどん再開発をしていけばいいというわけではないという話については、例えば、神戸の三ノ宮駅周辺ではもうタワマンは建てさせないという方針を打ち出しているが、それがどのような結果となるかは、もう少し見守らないといけない。今回、樹モールプラザができて、どういう属性の人が入って、どのようにインフラが高まって、今後、再開発が増えていくと、どういうインフラが必要なのか、という事を見据えないといけないため、まずは、樹モールプラザでどういう人が入居されたのか、どういうニーズがあるのかが、非常に大事であると思っている。

利用者調査についてだが、ビジョンレベルの意見も必要だが、駅前広場を若

い人たちがどういう風に使いたいかなど、具体的な個別意見も含めた調査にしていきたい。

・座長

「将来想定される事項」について、中距離電車が停車したときの課題が想定されているが、もっと夢を語ってほしい。川口駅がどう変貌できるのかという議論が今日はなかった。ぜひ、その議論からお願いしたい。浦和駅は、北浦和駅や与野駅とどう違うのか、蕨駅や西川口駅とどう違うのかを考え、中距離鉄道が停まることによって、その駅の周辺をどこまでもものにできるのか、といった議論をまずしていただいて、その姿に向かって、何をしなければいけないかという議論をしていただきたい。委員のお話にあったように、駅の顔作りの話も必要ではないかと思う。

もちろん、個別の課題も議論しなければならないが、将来のこの街をこのチャンスでどう生かしていけるかという議論をしていただきたい。

4 閉 会

事務局から、閉会が宣言された。